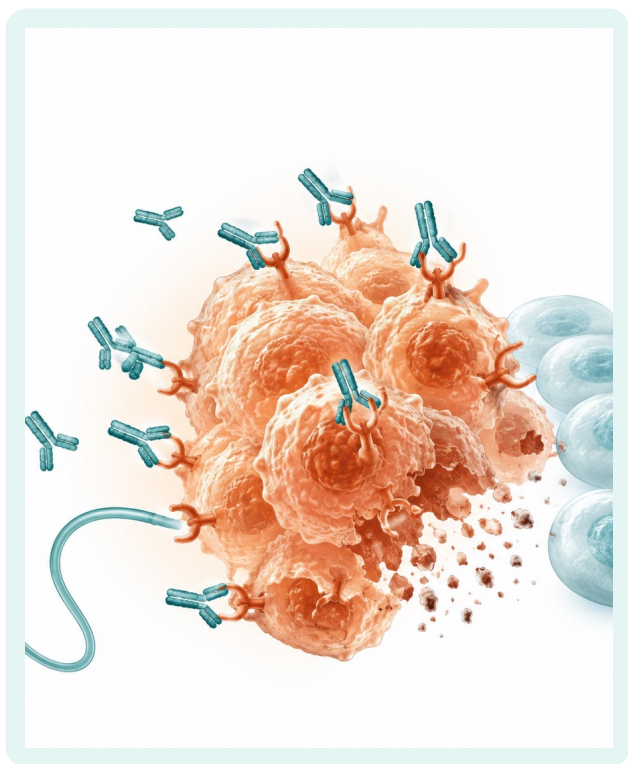


新しい薬で広がる治療の選択肢

耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、よりターゲットを決める治療が進んでいます

病気の種類や特徴に合わせて治療を選ぶことで、効果と副作用のバランスを改善できる可能性があります。新しい薬や治療法が次々と登場しています。

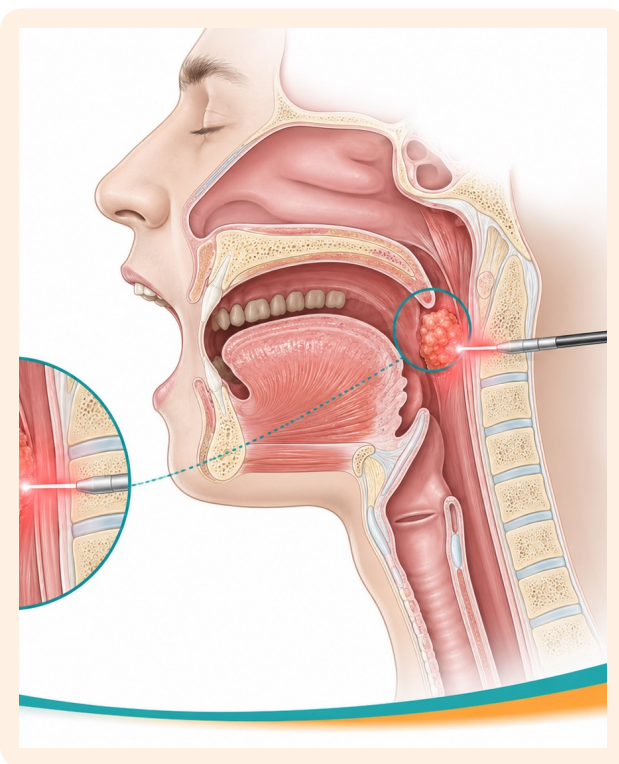
1 がんの薬物療法も進歩



- 抗がん薬に加え、分子標的薬や免疫療法などを組み合わせます
- がんの「目印」や全身状態を確認して選びます
- 手術・放射線治療と組み合わせることもあります

適応・実施施設は主治医と確認

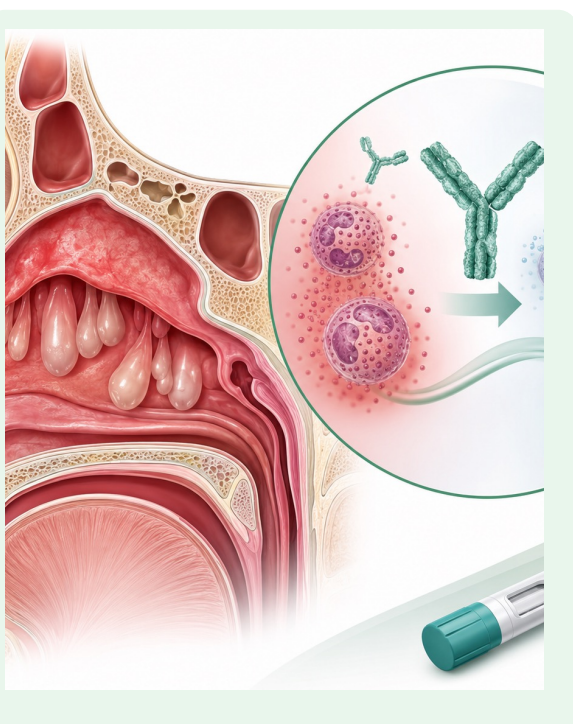
2 光で狙う治療



- 薬の投与と光照射を組み合わせる治療があります(アキラルックス®)
- 薬が集まりやすい腫瘍へ、医師が光を当てます
- 一部の頭頸部がんでは選択肢になります

適応・実施施設は主治医と確認

3 がん以外にも生物学的製剤



- 好酸球性副鼻腔炎・鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎でも新しい薬があります
- 炎症に関わる分子を狙い、症状や再発を抑えることが期待されます
- 例：デュピルマブ、メポリズマブ、デペモキマブなど

最近では長期間（約6ヶ月）に一度投与するデペモキマブ(エキシデンサー®)のようなものも

4 治療は「効き目」だけでは決めません



- 効果：病気をどれだけ抑えられるか
- 副作用：出る可能性や程度はどうか
- 通院・生活：仕事や家族との両立はどうか
- 費用・保険：負担額や対象制度を確認

高額療養費制度や相談窓口も活用

ターゲットを決める治療 = 効き目・副作用・生活・費用を見ながら選ぶ医療

新しい薬が増え、選べる治療も広がっています。
詳しくは耳鼻咽喉科・頭頸部外科へご相談ください。

※ 薬の対象、保険適用、実施できる施設は、病気の種類・進行度・全身状態・時期によって異なります。費用が高額になることもあるため、主治医や相談支援センターと一緒に確認しましょう。